

NIE を活用して

主体的に生き生きと学び合う子どもの育成

対話的学習をとおして問題発見・解決力と情報活用力を高める

伊丹市立池尻小学校 校長 磯田 かおり
教諭 門間 祐二

1 はじめに

本校は伊丹の西部に位置し、全校生約 700 人の伊丹市では中規模の学校である。校区には田畑もあり、古くからある西野地区と大型ショッピングモールの建設に伴うマンションや新興住宅が建ち並ぶ池尻地区からなっている。家庭的には共働きの家庭が多く、新聞購読数は3割を切っている。又、全国学力学習状況調査の質問紙では「地域や社会で起きている問題や出来事に興味」が低いことが課題として見えてきた。新聞にふれる環境を整えることが大切だと感じた。

NIE 実践指定校としての1年目の今年度は下記の3点を目標に実践した。

- (1) 子どもたちに新聞を身近に感じさせ、新聞の面白さを伝え、興味をもたせる
- (2) 新聞記事を読んだり、新聞記事をクラスのみんなに紹介したりすることで、社会の出来事に目を向け、自分なりの考えをもつことができるようにする。
- (3) 新聞から表現方法を学び、新聞づくりの学習の中で必要な情報を収集し、文章や写真などで表現する力を育てる。

実践にあたって、5年生では、新聞作成用プラウド型アプリを活用した新聞づくりにも取り組んだ。研究推進委員会とも連携し、主体的に生き生きと学び合う子どもの育成を目指して、国語科を中心に他教科でも言語活動を取り入れて実践した。

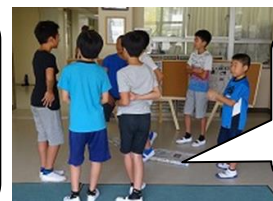
2 児童が新聞にふれる環境づくり

技能員さんの協力で新聞台が5台制作され

た。新聞を掲示することで、子どもの目の高さになり、めくこともできる。毎朝、NIE委員会の児童が気になる面を開き掲示することで、たくさんの児童が立ち止まるようになってきた。



NIE 委員会
毎朝 8:00~
紙面チェック
掲示タイム



どの記事を
紹介しよう
かなあ

校長先生の NIE コーナー



3 実践の概要



小学生新聞コーナー
読みやすいように棚
にかけてあります。

新聞朝市 7:50~8:30

開門前に新聞を読む子どもたち

(1) 6年生での取り組み



6年生の学級では、一人1日分の新聞を手にとって興味のある記事に目を通す活動を行った。自分たちの身近なことや社会、国際的なこと等、ふだんふれない様々なことに興味や関心を広げさせるのがねらいである。定期的に廊下にスクラップを貼り、友だちの記事を読み合い、感想を共有するようになった。



私の気になる記事

班で1人が新聞読書朝学習に実践

①気になる記事を選び感想を書く。

②班で交流する。

活動を継続することで、学習に関連した記事を選ぶようになってきたのが成長である。



(2) 5年生での取り組み



記者に話を聞いたことをまとめ、写真の選び方やキャプション・リード文の書き方など

を学習してきた。事実と意見に分けた記事を書くこと・表現の工夫を取り入れるなど人の目を引きつける記事づくりを意識してきた。



新聞やアプリを使った新聞づくりを通して、見出しやトップ記事の書き方などの学習をしてきた。神戸新聞社の「ことまど」を活用しわかりやすい新聞づくりに取り組んだ。

5年生では4回アプリを活用し実践に取り組んでいる。事実と意見に分けた記事を書くことや表現の工夫を取り入れるなど人の目を引きつける記事づくりを意識してきた。また、互いの記事を推敲することで、友だちの記事の良さや表現の工夫方法を知り、自分の記事に取り込むことができる児童が増えてきた。

(3) 記者派遣事業



「新聞は情報を整理して価値判断をして、これが大切と考えることを大きく正しく伝える。」ということ学んだ。また、伝えるためにはよく調べること、調べることで記事がわかりやすくなり信頼できる情報を伝えられるようになることを学んだ。

(4) スキルアップ研修 (教師の授業力向上)

元アドバイザー
岡本光子先生の
実践講座
「新聞を作ろう」



教職員も新聞作成



元 NIE アドバイザーの岡本先生を講師に迎え、池尻小学校職員が新聞の作り方を学んだ。活動を通して新聞の書き方のコツや難しさに気づいたり、グループのメンバーと編集会議をして話し合う面白さを感じたりした。出来た作品はランチルームに掲示した。

(5) 他教科の実践

【家庭科】6年生の実践

- ①それぞれ違った日の新聞から気になる記事を班ごとに見つける。選ぶ記事の規準は家庭科領域 (衣食住・地域・防災・保育・介護)
- ②見つけた記事を要約し、理解を深める。
- ③自分の考えをまとめる。

「こうなればいいな」「こうすべきだ」「違った見方がある」など、自分の視点を明確にして書く。

④記事、要約文、意見文を模造紙に貼り、発表会の練習をする。

⑤パネルトークをし、新聞を見に来た人の感想を聞く。

〈授業後の感想〉

1週間の新聞記事の中にはたくさんの家庭科に関する記事があることが分かった。その記事が国際問題や道德問題、行政問題等につながっていたりすることも分かってきた。

教科の垣根を越えた深い思考を育むため新聞から学ぶ教育はとても重要だと感じている。



【体育】1・2年生の実践



新聞棒の作り方

- ・新聞紙4～5枚
- ・横向きに固く巻く
- ・テープで3カ所とめる

新聞を使った「跳ぶ」遊びにチャレンジ

①1人でジャンプ

- ・(横に置いて) 前後20回跳べたら座る。
- ・(縦に置いて) 左右20回跳べたら座る。
- ・(縦に置いて) ケンケンで20回など…

②2人でジャンプ

- ・1人が棒を2本持ち、ワイパーのように新聞棒を動かす。もう1人が棒に当たらないように跳ぶ。(30秒交代)

③8人でジャンプ

- ・8人組で置き方を話し合いチャレンジする。班でさらに工夫した面白い跳び方を紹介しチャレンジする。

新聞の棒の長さはパーソナルスペースの長さ。電車ごっこで距離感を学ぶことができた。



4 アンケートから

1年目実践を終えてアンケート結果

【児童用】（5年生 111人）

①情報をどのような手段で入手していますか。

新聞・ネット・テレビ（6%）

新聞・テレビ（15%）

ネット・テレビ（44%）

テレビ（34%）

②あなたの家は新聞をとっていますか。

とっている（28%） とっていない（72%）

③家族・友人・先生と新聞記事やニュースについて話をしますか。

話をする（60%） 話をしない（40%）

④NIEの授業は興味関心が持てますか。

あてはまる・だいたいあてはまる（70%）

あまりあてはまらない・全くない（30%）

【教師用】（○成果 ●課題）

（1）児童にとってNIEはどうでしたか。

○新聞に興味を持ち子ども同士が新聞の話題で休み時間に会話するようになった。

○家でも学校で教師が話をした記事を探すなど新聞に興味をもった。（3）

○新聞の様々な活用方法を知ることができた。

○見出し、本文、写真など部分に分けて、記者の伝えたいことを考える力がついた。

○広く様々なことに興味を持つことができた。

○社会の事象に興味を持つことができ、記事に対して自分の考えを持つことができた。

○新聞をとっている家庭が少ない中、学校でしか新聞に触れられない子どもにとっては、新聞に興味をもたせるきっかけになった。

○社会への興味関心が高まった。新しい考え方、知識が広がった。

○児童を通して家庭でも新聞に親しむ気持ちが感じられた。（会話より）

○言葉の表現の工夫ができるようになった。事実と意見を分けた文章が書けるようになった。

○文章を書く力が身についた。

○言葉に興味をもつ。社会の何に関心をもつ

ているか知ることができてよい。

●（地域の特性上）家庭の協力は得られない。

●新聞をとっている家庭が少ないので日常的に目にふれさせるようにしたい。

●低学年には、なかなか扱える記事がない。

●文字を書く、読むのに苦手な児童にとってのアプローチが難しい。

●一部の児童にとっての興味にとどまっていた気がする。

（2）先生たちにとってNIEはどうでしたか。

○授業や朝の話題を探するなど、新聞をよく手にする姿が見られる。保護者も新聞に手を止める人が時々見られるようになった。

○前以上に新聞を読む機会が増えた。

○まとめる力、見出しの重要性、写真の活用の仕方などを指導できたのでよかった。

○授業で使える記事はないかと新聞を読む機会が増えた。（2）

○新聞はいつも捨てるだけだったので、いろいろ勉強できてよかった。時間はとても短いけれど、新聞を見るようになった。

○新聞を読み込むことができた。

○新聞の書き方を見本として利用し、書き方の指導ができた。

●難しい（習っていない）漢字やことばが多く、そのまま資料として活用しづらい。

●教師自身をもっと学ばなければと思う。

●学校にたくさん新聞がないと一斉に授業ができない。研修が必要。

●学年にあったカリキュラムを作成する必要があると思った。

●たくさんの新聞をいかし切れているのか不安。

5 おわりに

児童が新聞を身近に感じ、NIEの授業に興味関心を持つことができた。また、新聞を活用することで文章を書く力や語彙力がついてきた。NIEの実践を通して、教師自身も指導の幅を広げ、活用の仕方を研究していきたい。